

ひかり

2026年3月号



Easter

日本聖公会 三光教会

第741号

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。生きていてわたしを信じる者は誰も、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」(ヨハネによる福音書 11:25)

わたしは「ニ」にいます

司祭シモン・ペテロ上田憲明

旧約聖書の出エジプト記3章で、モーセに神さまとが出会い、エジプトへ行つて奴隷になつていゝるイスラエルの民を解放するといゝうミッションを託される時に、神さまが名乗る名前は、かつての聖書では、「わたしは有つて有る者」と訳されてきました。そこから、非常に深遠な哲学的議論や神学的議論が導き出されたものでした。しかし、ここでは、前後の文脈を読む中で導き出される意味の方が遙かにリアリティが感じられると私は思います。

エジプトに限らず、古代の社会では、奴隷になるといゝことは、その人が神様から見捨てられていゝるとか、あるいは、奴隷の祈りを聞く神さまなどいゝないとか、と考ゝえられていたようです。そしてモーセが託されたミッションからいゝる事は、そのどちらでもないといゝう神さまからの答えだったのではないでしゝうか。神さまが見捨

てているといゝう考え方に対しては、

るといゝうことを。

奴隷にされている人たちの「叫び声を聞き、その痛みを知つた」(出エジプト記3:7)と神さまはおつしやられる。ハラハラするほどの思いで、彼らのことを見ておられ、辛い叫び声に耳を傾けておられることが告げられていゝます。それはモーセが若い時からずつと気に掛かつていたにも関わらず、それがきっかけで人を殺してしまふことになつてしまひ、逃げてきたモーセにとつては、どうしようもないと諦め、心の奥底にしまひ込んでいた事でもありました。もう一つの奴隷の祈りを聞く神様などいゝるのか、といゝう問いに対する答として、「神はモーセに『私はある。わたしはあるといゝう者だ。』と現代の新共同訳聖書も聖書教会訳聖書も訳していゝます。それは、名乗つていゝるといゝうよりは、奴隷の祈りを聞く神がここにいゝるよ、と神様が熱い思いで訴ゝえかけていゝるのかのようです。これは現代的な感覚で言つと、まさに「神も仏もあるものか」といゝう絶望の淵に立たされた人に対する神さまからの呼びかけのような答えです。そういう人にこそ聞いてほしい、「私はいゝる、私はいゝるんだよ」と神さまは語りかけておられ

苦しみや嘆きの淵にいゝる人に答えようとする神さま。その神さまが、また人間に呼び掛ける、「わたしと一緒に、その苦しみに、その嘆きに答えてくれる人はいゝないのか?」と。モーセをはじめ聖書に出てくる人々は、長い歴史の中で、まさにその神様の呼び掛けに答えようとした人たちの姿が多く記されていゝます。そして、その人たちは、こう答えていゝます「わたしはここにいゝます」と。

しかし、その一方で、厳しい現実を目の前にした時、そんな事を自分ができるはずがない「無力感」も同時に起こつてきます。多くの人どころか、目の前にいゝ一人の人さえ、どうにもできない、いや自分自身さえ、どうにもできない自分であることを痛感し、不思議なことに、神さまはそういう無力感を感じていゝる人を用いようとするのです。その無力感は、神さまからの使命を行なつていく時に、神さまと一緒にでなければ、何もできないことを絶えず思い起こさせてくれるものだからなのでしょう。

3月～4月の予定

- ◆3月
- 15日(火) 大斎節第4主日
- 17日(水) 主教バトリック
- 18日(水) 主教教会博士エルサレムのシリル
- 19日(木) 聖ヨセフ日
- 21日(土) 主教トマス・克蘭マー
- 22日(日) 大斎節第5主日
- 25日(水) 聖マリヤへのみ告げの日
- 29日(日) 復活前主日
- 30日(月) 復活前月曜日
- 31日(火) 復活前火曜日
- ◆4月
- 1日(水) 復活前水曜日
- 2日(木) 聖木曜日
- 3日(金) 聖金曜日(受書日)
- 4日(土) 主教リチャード
- 4日(土) 聖土曜日(イースター・ヴィジル)
- 5日(日) 復活日
- 6日(月) 復活後月曜日
- 7日(火) 4月逝去者記念礼拝
- 7日(火) 復活後火曜日
- 8日(水) 復活後水曜日
- 9日(木) アメリカ大陸の殉教者
- 10日(金) 復活後金曜日
- 11日(土) 復活後土曜日
- 12日(日) 復活節第2主日
- 19日(日) 復活節第3主日
- 21日(火) 主教教会博士アンセルム
- 23日(木) 殉教者ジョージ
- 25日(土) 福音記者聖マルコ日

「伝道師としての私の召命」

濱口 俊

福岡にある福岡聖パウロ教会と、東京にある三光教会の姿を思い浮かべるとき、私は教会の持つ二つの大切な使命を感じる。一つは都市の中で広く開かれた福音の場として人々を迎え入れる使命であり、もう一つは地域社会の中で静かに人々の人生に寄り添う使命である。これら二つの姿は、私が伝道師として歩みたいと願う召命の姿を深く示している。

福岡聖パウロ教会は、都市の中にある教会として多様な人々が訪れる場所である。そこでは礼拝だけでなく、教育や社会活動を通して福音が伝えられてきた。一方、三光教会は住宅地の中で地域に根ざし、信徒と地域の人々が共に歩む共同体として存在している。

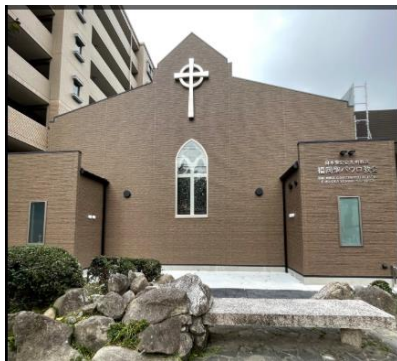
「三光」という名が示すように、信仰・希望・愛という三つの光が人々の生活を静かに照らしている。

私はこの二つの教会の姿の中に、これからの教会の可能性を見る。教会は礼拝の場であると同時に、人々の人生の節目に寄り添う場所であるべきだと感じている。現代の社会では、多くの人が孤独や不安の中で生きていく。人生の終わりをどう迎えるのか、家族や生活の不安をどのように支えるのか、そのような問いを抱えながらも、相談できる場所を持たない人は少なくない。

私の召命は、そのような人々に寄り添う教会の働きを形にすることである。終活の相談を通して人生の意味を共に考え、子供食堂、フードパントリーなどの活動を通して生活の困難に寄り添い、地域の人々が安心して訪れることのできる場所を教会の中に作ることである。そのような関わりの中で、人々は教会を単なる宗教施設としてではなく、自分の人生を支える共同体として感じるようになるだろう。

福音は、遠くから語られる教えではなく、人の人生に寄り添う光である。教会が地域の中でその光を静かに灯すとき、人々は自然にその光に導かれていく。私が願うのは、教会がそのような「三つ

の光」を放つ場所となることである。信仰の光、希望の光、そして愛の光が人々の人生を照らす教会に仕えること、それが伝道師として与えられた私の召命である。



日本聖公会福岡聖パウロ教会

東日本大震災を覚えて

いつくしみ深い神、慰めの主よ、今、わたしたちは東日本大震災を覚えて祈ります。

どうか、被災地にある人、避難生活を強いられている人、特に日本社会の中で生きることの困難に苦しむ人、将来の希望を見い出せない人(ことに――)を支えてください。

また原子力発電所事故により、
失われた自然と人々の生活を覚え
ます。故郷を離れて生活する人、
危険な作業に従事する人とその家
族をお守りください。そして政治
と社会に責任を持つ人々に正しい
道を歩ませてください。

わたしたちもまた、これらの苦難
をつねに覚えることができますよ
うに。日本聖公会の被災者支援の
働きを強めてください。そしてわ
たしたちも思いと力を合わせて、
共に歩み続けることができるよう
に導いてください。

いのちの源である主よ、東日
本大震災のすべての犠牲者、そし
て世界各地の災害と争いの中で生
命を失った人々を、あなたのみ腕
の中に抱き、永遠の安らぎを与え
てくださいますように。

イエス・キリストのみ名によ
ってお願いいたします。アーメ
ン
(日本聖公会主教会 2016年
2月一部改訂)

この祈りは3月11日に近い主日、
3月11日の記念礼拝、祈り等に
おいて、およびその後も用いられる
ことを意図して作成されたもの
です。

◆大齋節・イースター礼拝案内◆

- 2月18日(水) 大齋始日(灰の水曜日)
 - 3月22日(日) 大齋節第5主日
 - 3月29日(日) 復活前主日(棕櫚の主日)
 - 4月2日(木) 聖木曜日
 - 4月3日(金) 聖金曜日(受苦日)
 - 4月4日(土) 聖土曜日
19時～イースター・ヴィジル
 - 4月5日(日) 復活日 イースター
- 【十字架の道行き】 毎週金曜日 正午から

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が
少なくなりました。土曜日の午
前10時から1時間程ご奉仕くだ
さい。ご協力いただける方は直
接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ

礼拝様式に馴れない方は椅子に
お掛けになったままで結構で
す。

- 礼拝中の献金は、信施金とし
て伝道のために献げられるも
のです。金額は自由です。
- わからない点は隣の席の者か
案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

- 主日礼拝
午前 7:30 聖餐式
午前 10:00 ステパノ会
(日曜学校)礼拝
午前 10:30 聖餐式
午後 4:00 夕の礼拝
- 平日礼拝
毎朝 6:30 から
月、水、金は朝の礼拝、
火、木、土は聖餐式